論 説

地球環境保全と持続的発展の新展開 ——地球サミットの成果と課題——

仲 上 健 一 *

は じ め に

熱冬のリオデジャネイロで開催された地球サミットが、全世界の注目のもとに開かれそして成功裏に終わった。『環境と開発に関する国連総会決議』（1989年）以来、多くの準備が重ねられてきたこの会議が、今後の地球環境保全へなげかけたものは何であったのであろうか。また、「SUSTAINABLE DEVELOPMENT（持続可能な開発）」の意味合いが先進国そして発展途上国にどのように受け止められたのであろうか。筆者は、UNCED（環境と開発に関する国連会議）、GLOBAL FORUM（グローバル フォーラム）、立命館大学・フルミネンス大学（ブラジル国立大学）との国際共同セミナーに参加する機会を得たので、現地での討論の印象も踏まえつつ、「地球環境保全と持続的発展」の課題を検討したい。

1. 地球サミットダイジェスト

『地球サミット』とは、一体何を指すのであろうか。地球サミットは、通常『環境と開発に関する国連会議』の略称であるが、リオセントロで開催された本会議は、リオに集まった人々に遠い存在であったし、また、表1に示すような多くの関連事業が持たれた。したがって、『地球サミット』は、『環境と開発に関する国連会議』を核としながらも、ブラジルで行われた関連事業、

もっと広く言えば、国連総会決議から展開された全世界の関連事業の総体を指すのが正確ではないかと思われる。

「環境と開発に関する国連会議」（UNCED）の概要は次のとおりである。

- ・開催期間：1992年6月3日～14日
- ・3～11：全体会合・政府代表演説、
主要委員会・8つのコンタクトグループにおける検討作業
 - 資金（リクペロ議長：ブラジル）
 - 技術移転（アルダース議長：オランダ）
 - 大気（シャーレン議長：スウェーデン）
 - 森林（リバート議長：ガイアナ）
 - 生物多様性（サンチュス議長：チリ）
 - 淡水（シャイブ議長：ナイジェリア）
 - 国際法（ナビル議長：エジプト）
 - 機構（ラザリイスタル議長：マレーシア）
- ・12～13：首脳会議、閣僚級の全体会合
- ・14：閉会式
- ・開催場所：リオセントロ（リオ・デ・ジャネイロ郊外約40km）
- ・組織：事務局長 モーリス・ストロング
地球サミット議長 コロール・ブラジル大統領
主要委員会議長：トミー・コー・シンガポール大使
会議への参加者は、178ヶ国政府代表（約7,000人）、

表1 地球サミット主要関連事業の概要

名称	日程	場所	概要
先住民族世界会議	5月25日～30日	カリオカ	世界28カ国の団体参加「カリオカ宣言」採択
世界都市フォーラム	5月28日～29日	クリチバ	世界から55ヶ国が参加 日本から7都市が参加
'92グローバルフォーラム	6月1日～12日	リオ・フラメンゴ公園	NGOのミーティングシンボ・展示
ジャパンデー	6月4日	リオ・シェラトンホテル	日本の環境保全の取組の紹介
国際環境技術博覧会	6月6日～12日	サンパウロ アニエンビ展示会場	世界21ヶ国、480団体 日本11団体参加

* 立命館大学経営学部教授 Kenichi NAKAGAMI

国連代表団800人、NGO 14,000人、登録ジャーナリスト8,749人、会場警備軍人等約2,000人である。一方、グローバルフォーラムへの参加者、187ヶ国、470団体から登録参加者だけで17,000人、フラメンゴ公園には、35のテントと650区画のブースが設置された。会期中に訪れた人（1日入場料US\$10）は、約51万人である。

なお、これらの数値は、正確のものでなく、公式記録集等の発行をもって確定されるであろう。いずれにしても、地球サミットの全容を把握することは不可能であり、筆者も含め、帰国後地球サミットに関連する色々の会議を通じて段々とその実態がつかめてきたというのが実情である。

地球サミットにおいて、政府・NGOを含めて、日本人の活躍は、新聞等においても連日報道された。（新聞ニュースとして、アースサミットタイムズ、ジョルナル・ド・ブラジル英語版、等の臨時の特集ニュースが毎日無料で発行された。また、テレビでは、会議の演説内容をポルトガル語で連日放送していた）

地球サミットの成果は、後に述べるとして、ストロング事務局長のまとめの要点を紹介しよう。

- 1 世界中の各層が参加、メディアが重要な役割を果たした。
- 2 リオ宣言を95年までに『地球憲章』につなげなければならない。
- 3 アジェンダ21は最終的なものではなく、完全な実行には道が遠い。
- 4 貧困や不平等を語ることなしには環境に取り組

むことはできない。

「毎日26万人の子供が生まれ、1分間に28人の子供が空腹で死ぬ」

- 5 国連のシステムを変える必要がある。
- 6 新しい経済システムに向かうことが真剣に検討されねばならない。
- 7 各国の主権とともに、未来世代の権利が尊重されねばならない。
- 8 人類の生き残りのために自己抑制をしなければならない。

2. 地球サミットの成果

地球サミットの成果は、次に示すものであるが、最大の成果は『環境』、『開発』、『資源』、『人権』、『経済』が準備段階を含めると多くの時間をかけて討議され、そして集約されたことであろう。491ページにわたるアジェンダ21は、ストロング事務局長が指摘したように、「最終的なものではなく、完全な実行には道が遠い」かも知れないが、実現に一步でも近付けたいという意思を醸成したのが最大の成果ではなかったのではないだろうか。

(1) 「環境と開発に関するリオ宣言」の採択

本宣言では、環境と開発に関する国際的な原則を確立するという性格のものである。宣言は前文と27からの原則からなりたつものである。持続可能な開発に関する人類の権利、自然との調和、現在と将来の世代に衡平な、グローバルパートナーシップの実現を規定したものである。

写真1 グローバルフォーラムで会見するモーリス・ストロング事務局長（左から3人目）

写真2 UNCED会場内の筆者

これは、「国連人間環境宣言」(1972年)の精神を継承し、現代の課題を発展途上国の立場を考慮しつつ簡潔にまとめたものである。会議準備段階では、先進国側は、「地球憲章」を目指し、発展途上国側は、「環境と開発に関するリオ宣言」が適切と主張し最終的には、リオ宣言となったのである。1995年を目途に「地球憲章」の制定が目指されることになった。両者の主張の差異は、次のとおりである。

1 総論

先進国：地球環境の憲法、すべての国家、個人は「持続可能な開発」の責務を分担する。
 発展途上国：環境対策をする場合は、開発のことも考慮すべき。先進国と発展途上国の責任には差があるべき

2 地球環境への責任

先進国：すべての国家、個人は地球環境保護の責任と公平な負担
 発展途上国：先進国は、環境保全についても主要な責任

3 国家間の責任

先進国：開発のために、環境、自然資源を利用する権利

発展途上国：自然資源利用にあたって主権をもつ

4 途上国への配慮

発展途上国：環境に関する国際的取り決めに途上国も参加
 先進国は必要な技術的・財政的援助をする

5 環境と教育

先進国：環境教育と情報手段の確保

発展途上国：環境対策のため、先進国は知識・経験の無料提供

6 資金供給と技術移転

発展途上国：問題解決のため、先進国は発展途上国に十分で新規かつ追加的な資金を供給する。技術も特恵的かつ非営利的に移転する

7 市民参加の権利・情報公開

先進国：環境影響について、政策決定過程に市民参加、情報参加

宣言は、以上のような対立点を調整し、原則(1)で、「人類は、持続可能な開発への関心の中心にある。人類は、自然と調和しつつ健康で生産的な生活を送る権利がある」とブルントラント委員会の精神を高らかにうたった。

(2) 「アジェンダ21」の採択

アジェンダ21は、「環境と開発に関するリオ宣言」の行動計画の意味をもつものであり、条約・声明などに比較して努力目標の性格をもつ内容である。「国連人間環境会議」における「行動計画」に相当するアジェンダ21は、極めて多岐で豊富な内容にわたるものである。アジェンダ21が本会議においてとくに注目される理由は、「国連人間環境会議」(1972年)における「行動計画」が国際社会全体に対し十分な効果をもたなかったことに対する配慮があったからであろう。すなわち、ストックホルム会議後に発生した世界的な石油危機により、人々の意識が「環境問題から経済問題へ」、急激に社会が変化したことや、『行動計画』において十分に資金的検討がなされていなかったことに対する反省がアジェンダ21の基本となっている。

アジェンダ21の重要な合意としては、次の4点である。

- 1 実施のための資金として各国ODAを対GNP比0.7%とする早期目標の達成が確認されたこと。
- 2 地球環境ファシリティ(GEF)の拡充強化が合意されたこと。
- 3 地球サミットをフォローアップするための持続可能な開発委員会を国連経済社会理事会の下に設置すること。
- 4 砂漠化防止、公海漁業と環境問題の国際会議の開催の合意。

アジェンダ21の主要な内容は次のとおりである。

1 社会経済的側面

社会経済に係る諸側面(経済・貧困・消費・人口・健康・居住)等について目標を掲げ、政策における環境と開発の統合をうたっている。

2 開発資源の保護と管理

環境保護（大気保全・森林減少・砂漠化・生物多様性の保全）と資源保護（山岳開発・農業と村落開発・海洋資源・淡水資源）および環境管理（有害化学物質・有害廃棄物・一般廃棄物・放射性廃棄物）が強調された。

3 主たるグループの役割の強化

地球環境保全の担い手として、女性、青年、先住民、NGO、地方自治体、労働組合、商業と工業、科学者、農民があげられその役割が強調された。とくに、グローバル フォーラムにおける女性の活躍は目覚ましいものがあった。

4 実施手段

特に重要な内容として、財源および運営方法、国際機関の準備、国際法、政策決定のための情報が議論された。決定をみない項目もミュンヘンサミットにおいて討議されることとなった。

その後、事務局においてアジェンダ21の最終文書が作成され、現在各国において、アジェンダ21の実施が鋭意検討されている。

ところで、ミュンヘンサミットにおいては、「環境と開発に関する国連会議」の成果をいかに具体化するかが討議され、経済宣言（成長とより安全な世界のための共同作業）（7／8）として、次の内容が盛り込まれた。

13. 『先進国及び開発途上国のすべての国に対し、政策と資源とを、現在及び将来双方の世代の利益を保護する持続可能な開発に向けるように求める』
14. a 気候変動条約（1993年）
b 国の行動計画策定・公表（1993年）
c 種の生息環境の保護
d ODA、GEFの強化
e 持続可能な開発委員会
f 森林の国際的審査プロセス
g 地球環境のモニタリング
h エネルギー・環境技術の開発
i 漁業資源確保

アジェンダ21の意味するものは、このフレームをどのように具体化・豊富化し、それをどのように実現するかであろう。地球環境の危機を回避するためには、どのような資金協力が必要か、そして、それは合意出来るのか、今後とも、正面に据えて議論していくことの基礎ができたことが最大の課題であろう。

とくに、資金協力についての合意は、アジェンダ21

の第33章「資金及びメカニズム」で討議され、それぞれの方式の内容について議論がされ、首脳演説においても、積極的に支援する旨の演説が行われた。

1 多国間開発銀行及び基金

国際開発協会（IDA）増資

地域開発銀行の効果的役割

地球環境ファシリティ（GEF）の増加費用を
発展途上国へカバー

2 各国政府の関連専門機関、他の国連機関及び国際機関

3 能力向上及び技術協力に係る多国間機関（UNDP）

4 二国間援助計画の強化

5 債務削減（債務救済手段の見直し）

6 民間資源の増加

7 投資の奨励、革新的資金調達の方法

地球サミットの成果としては、技術移転の合意、フローアップ機構についての合意、「森林保全の原則声明」の採択、「気候変動に関する国際連合枠組み条約」への署名、「生物多様性に関する条約」への署名があげられる。

また、NGOでは、NGOグローバルフォーラム『地球憲章』、NGO条約（NGO TREATY）が作成された。

3. 地球環境保全と地球市民の課題

地球サミットの評価は、単純でない。世界中の色々な人が一堂に会して、地球環境のあり方を模索したのはともかく大きな前進であったといえよう。この勢いが、ブッシュ米国大統領をリオへ行かせ、「私は謝りに来たのではない」と演説させたのである。しかし、強力なリーダー国、強烈なリーダーシップをとる指導者が生まれなかったのは事実である。モリス・ストロング事務局長は20年前の『国連人間環境会議』の事務局長でもあった。彼の総括には、満足というよりも厳しさととも、寂しさを感じることができた。国連人間環境会議の成果である『国連環境計画』の活躍も見られなかった。しかし、一人の英雄、一つの強力な機関よりも、アジェンダ21で強調された多くのグループが、それぞれ自覚と責任をもって活動していくしか本当の解決の道は無いのであろう。地球サミットへの期待感64%（1992年2月9日、読売新聞）を、今後とも持続していくことが、地球環境時代の地球市民の課題であろう。

JORNAL DO BRASIL

Rio de Janeiro -- Saturday, June 13, 1992

ENGLISH EDITION

© JORNAL DO BRASIL S.A. 1992

Welcome to Rio

This special edition is the way JORNAL DO BRASIL and the State Bank of Rio de Janeiro (Banerj) found to welcome the thousands of foreigners who have come to participate in the UNCED and other events.

WEATHER

In Rio and across the Bay in Niterói, cloudy skies with possibility of showers but clearing up later in the day. Temperatures unchanged from yesterday. High: 28.2 Celsius (82.8 Fahrenheit). Low: 18.1 Celsius (64.6 Fahrenheit). Seas calm with moderate visibility.

Dollar Rate:

Cr\$ 3,220
Cruzeiros de Cambio were paying Cr\$ 3,230 for US\$1.00.
Banks were paying Cr\$ 3,100 at closing time on Friday.

Country eating

Ten minutes from Barra da Tijuca in Vargem Grande you will find a peaceful remnant of what Rio used to be like and some interesting restaurants. Jornal do Brasil food specialist Danusia Barbara describes the Quinta run by landscaper, and some others. (More on page 12).

Sarajevo cease-fire

The Serbians declared a unilateral cease-fire in Sarajevo starting 6am Monday. Serbian troops have been encircling the Croat occupied city for the past two months, practically cutting off its 300,000 inhabitants from the rest of the world. (More on page 2).

Everyone's an environmentalist

Bush arrives with heavy security at Earth Summit

From George Bush to his enemy Fidel Castro, from the Vice-president of formerly-Communist Russia to the prime minister of insistently-Communist China, whatever the personal and political differences between the 54 world leaders who spoke at the Rio-92 Earth Summit yesterday, they all expressed the same will to assume their historic role and to save the Earth.

"When our children look back on this time and place, they will be grateful for our encounter in Rio," said the U.S. President in the most eagerly awaited speech of the conference. It was a tough speech, at times arrogant, and moved back and forth between fighting words — "I am not

going to apologize" — and declarations of good ecological conduct — "We have the most rigorous air quality standards in the world, the most advanced laws to protect the air and water."

If Bush's speech was the most anticipated, that of Cuban President Fidel Castro was the most heavily applauded. In what was perhaps the shortest speech of his life — only four minutes when he had a right to seven — the traditionally verbose orator became strangely concise. The hard-line dictator ended his speech with an appeal: "End this egotism, end this talk of hegemony, end this insensibility." Everyone applauded ... including George Bush.

Evandro Teixeira

Cuban President Fidel Castro kept it short and sweet when he addressed the Rio-92 Earth Summit plenary session yesterday

First couples dine

Collors invite Bush and wife to Rio palace

for dinner at the Palácio Laranjeiras in Rio.

When the U.S. President and First Lady arrived they were greeted by a warm "bem vindo" (welcome) from Collor who was waiting with his wife at the top of the palace steps. Before entering the palace for dinner the four posed for photographs.

Barbara Bush wore a dress of blue lace. Rosane Collor wore a dress of green chiffon with a transparent waist and sleeves.

Yesterday night, the first couple of Brazil — President Fernando Collor de Mello and his wife Rosane — had the first couple of the United States — President George and Barbara Bush — and various other dignitaries

Cuba treats 200 victims of radiation

Cuban President Fidel Castro announced yesterday that 200 children affected by Caesium-137 radiation in a nuclear accident five years ago in Goiânia, the capital of the Brazilian state of Goiás. Brazilian doctors will go to Cuba while nurses will be sent to Brazil. The treatment costs US\$ 1,500 per victim. Brazilian artists promised to raise the funds. (More on page 14.)

Rio business made US\$ 50M during UNCED

The city of Rio de Janeiro received about US\$ 50 million from the Rio-92 Earth Summit on the last fifteen days, said Ronaldo Monte Rosa, president of Embratur. After talking to foreign clients, some Brazilian executives, such as the director of Churrascaria Porcão, Neodi Mocelin, are thinking about opening foreign branches. (More on page 11)

参考文献

- 1) 朝日新聞「地球サミット」取材班編、『「地球サミット」ハンドブック』朝日新聞社、1992年4月
- 2) 山崎浩一編集、『地球サミット Live in Rio』朝日ジャー

ナル、1992年8月30日

- 3) 環境庁地球環境部、『環境サミットについて』、1992年7月14日
- 4) 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議、『CASA Letter '92-No.6』、1992年7月